

『口座』には、
「口から口へ語り継ぐ」
「時間を預けていただければ、
利息（知恵や知識）をお返
しします」との意味が
込められています。

少し時間を預けてください・・・

当世語り部口座

～人間ってすごいじゃないか。

やまと郡山城ホール レセプションホール（1～5・8回）
小ホール（6・7・9・10回）

語り継ごうよ、語り部の里、大和郡山から～

ふるさとの誇りや自信を取り戻すために知っておきたいこと、語り継ぎたいこと・・・

多彩な分野の講師が『語り部』となって、歴史の主人公である人間と、人間が生み出す文化・芸術と、人間をはぐくむ大いなる自然の魅力に迫ります。

回	日時	講師／演題	概略
1	3月3日(土) 10時～ 約130人	はじめ 馬場 基 奈良文化財研究所 主任研究員 『都びとの声をひろう』	奈良時代には、「文字」以上に「話し言葉」が重要視されていました。「口伝え」による音声の世界が豊かに広がり古事記の誕生につながりました。
2	4月21日(土) 10時～ 約130人	たけし 松村 武 劇団カムカムミニキーナ主宰 『“劇という語り方”』	稗田阿礼は古事記を演劇にして伝えていたのではないのでしょうか。文字のない古代において、演劇は物を伝える手段だったのではないのでしょうか。
3	5月4日(金・祝) 10時～ 約130人	さっか かずゆき 作花 一志 京都情報大学院大学教授 『日食から探る古事記の世界』	来る5月21日に観察できる金環日食の見え方、見方を説明いただくとともに、古代「天の岩戸日食伝説」について掘り下げていただきました。
4	6月30日(土) 14時～ 約130人	みのる 千田 稔 奈良県立図書情報館館長 『コレクター水木要太郎の宇宙』	水木十五堂の人柄や業績、あるいはその時代を読み解き、豊富な交友関係や人脈を持ち、人と人とのネットワークの中で水木のコレクションが形成されていたことがわかりました。
5	7月29日(日) 14時～ 約130人	あきお 岡本 彰夫 春日大社権宮司 『郡山と武家の文化』	奈良市は公家の文化、郡山は武家の文化が濃厚です。郡山の武家文化について、柳澤家のこと、柳里恭のことを通じてお話しいただきました。



回	日時	講師/演題	概略
6	8月20日(月) 14時 約280人	小林 ^{せいめい} 晴明・宮崎 みどり 「古事記のものがたり」著者 『こんなゆかいな日本の神話・古事記のものがたり』	私たちの祖先は、自然を人間と対等のもの(神)として厚く敬いながら四季の巡りに順応し、楽しくおおらかに生活していました。古事記に描かれた、先人たちの知恵や暮らしぶりを紹介していただきました。
7	9月20日(木) 14時 約280人	神崎 ^{のりたけ} 宣武 旅の文化研究所長 『山のカミ里の神 —信仰の原風景』	山島列島の日本で民間に広く根づいているオヤマ(御山)信仰。歳神も田の神も山から招く行事は、現在も伝わります。根強いオヤマ信仰の文化性を再考いただきました。
8	10月15日(月) 14時～ 約130人	喜多 敏夫 自然循環型農業農家 『自然循環型農法の実践』	天敵や酵母菌を利用し、有機栽培や減農薬にこだわり、「自然循環型農法」を行っておられる喜多さんに、その実践を通じ、人間と自然の関わり、人間と自然の共存の仕方について語っていただきました。
9	10月29日(月) 14時～ 約280人	鎌田 ^{とうじ} 東二 京都大学こころの未来研究センター教授 『My 面白古事記伝』	古事記の「面白さ」(次々と繰り出されていくスリリングで奇想天外なストーリーテリング)と「変さ」(日本書紀や各国風土記にはない、独自の物語伝承や重要な神学的観念が明確に提示されている点)に光を当て、掘り下げました。
10	11月12日(月) 14時～ 約280人	藤本 ^{やすふみ} 保文 賣太神社宮司 『古事記が語ること』	古事記の編さんに携わった稗田阿礼を主祭神として祀る、賣太神社(大和郡山市稗田町)の宮司を務めておられる藤本さん。 阿礼が古事記を通じ我々に残したモノは何か、後世に語り継いだことは何か。古事記に綴られた、先人の感性や知恵、自然観、世界観について語っていただきました。



前期(1～5回)は、やまと郡山城ホールレセプションホールで定員130名で募集をかけたところ、どの回も定員の倍を超す申し込みをいただいて、抽選としました。そのため、後半は小ホールへと会場を移し開催。280名の方に参加いただくことができました。また、第8回は講師の喜多さんと市長の対談という形で進めました。